

良好な環境が整った

まちづくりを目指して

彦根市は、昨年3月に彦根市環境基本条例に基づく「彦根市環境基本計画および地域行動計画」を策定しました。これは、自然環境、生活環境、歴史文化環境のそれぞれについて、目標にすべき望ましい姿と、それを実現するために必要な行動計画を具体的に示したものです。

また、9月には「環境パートナー委員会」を設置し、計画に基づいて施策が適正に実行できているか、どの程度目標に近づいているかを学識経験者や市民の皆さんなどに評価していただく体制を整えました。さらに、10月には「ISO14001」認証取得に向けてキックオフ宣言するなど、良好な環境の保全、創出のための取組を着実に進めています。

「21世紀は環境の世紀」と言われています。新しい年の幕開けにあたり、市内で環境保護などに関する活動に取り組んでいる皆さんに、環境とまちづくりについて語り合っていたいただきました。

出席者（順不同）

岩根順子さん（鳥居本町）

「淡海文化を育てる会」事務局

川崎昭重さん（平田町）

樹木医、元彦根市環境基本計画策定推進委員

大工真理子さん（中敷町）

地域循環型生活推進事業協議会委員

西尾好未さん（大津市）

滋賀県立大学大学院環境科学研究科修士課程

中島 一

彦根市長

座談会の会場となった野田沼は宇曾川の河口近く、須越町集落の東側にあります。中央に伸びた半島には、友好都市・中国湖南省湘潭市から贈られた柳（早柳）が林を形成し、池の周囲を取り囲むヨシ群落と相まって、間近にある荒神山を背景に、豊かな自然環境に恵まれたまち・彦根を象徴する場所の一つです。住みつく野鳥の種類も多いことで知られ、バードウォッチングや釣りを楽しむ市民に四季を通して親しまれています。

環境保護、それぞれの取組

市長 皆さん、新年あけましておめでと
うございませう。

さて、この座談会のテーマは一言で
言いますと「環境」です。皆さんは
それぞれのお立場で環境問題に取り組
んでおられますので、自己紹介と合わ
せご説明いただきたいと思ひます。

西尾 滋賀県立大学大学院環境科学研究
科の修士課程の2回生です。昨年11月
に県内各地で開かれた第9回世界湖沼
会議で、学生セッションを主催しまし
た。学生という立場を生かした湖沼保
全に関する国際的な活動計画づくりを
目指しています。

岩根 「淡海文化を育てる会」の事務局を
担当しており、滋賀県の自然・歴史・
文化のいろいろなテーマをとりあげる
「淡海文庫」という書籍を作っていま
す。今年、中山道ができて400年
という節目の年でもあり、街道文化を
生かした活動ができないかと模索して



西尾 好未さん

いるところで。

川崎 樹木医として、井伊神社の枝垂れ
桜、彦根城の樹木、芹川のけやき並木
などの保存、平田川沿いの「桜の通り
抜け」実現などに関わってきました。

樹木は私たちに潤いと安らぎを与
え、また、景観上も欠かすことのでき
ない大きな環境要素の一つではないか
と思ひます。そういう関係から環境問
題に関心を持つようになりました。

大工 私たちの自治会では、昨年の春に
芹川の土手沿いのところに生ごみ処理
機を設置しました。自治会ぐるみで日
常生活から出る生ごみのリサイクル活
動を行っています。まだ始まったこと
ですが、自治会全体に活動が普及す
るよう努力しているところで。

自然と人間との共存、共生

市長 環境をよくするということは、人
の交流の問題とか文化、また、未来の
生活にもつながるわけですが、西尾さ
ん、県立大学ではどのような勉強をさ
れていますか。

西尾 人間活動が環境に及ぼす影響を学
び、そして、良好な環境をつくりだす
ための方法論の研究をしています。環
境には非常に多くの要素が含まれてお
り、そのことを学ぶことで人間活動や
文化を無視しない「共存」とは何かを
日々考えています。

市長 私たちの祖先は平地や山すそを開
拓、開墾し、樹木を伐採して田をつく

彦根市長 中島 一



ってきました。その田に稲を植えて農
業が発展してきました。しかし、考
えてみますとこれは自然破壊の歴史で
すよね。環境科学ではそういう面をど
のように考えるのでしょうか。

西尾 環境科学部では、過去の歴史から
現在にいたるまでのあらゆる分野につ
いて研究します。人間は自然の節理を
壊し、自然環境を破壊してきました。
しかし、こうした中で自然の力を守れ
る力をつけているのも人間だと考えま
す。これからは人と自然が共存するこ
とが大切ではないでしょうか。

岩根 芹川は、もとの流れを彦根城築城
に際して付け替えた人工河川です。昭
和になつてから、一時暗渠にするとい
う話があつたと聞いています。しかし、
そうするとけやき並木がなくなるので、
憩いの場を残したいという住民の
要望で現在も残っています。何もかも
残せというのではなく、残すべきもの
と変えていくべきものを、自然環境
生活環境、文化的環境それぞれの角度
から検討したうえで取捨選択すること

が必要ではないでしょうか。

例えば、交通量の増加に対応するた
めに道路をつくりたい、道路幅を広げ
たいというときには、どこかで環境を
損なうところが出てきます。こうした
問題は、自然と人の共生という面から
考えていかねばならないでしょうね。

川崎 私の住む地域を流れている平田川
は、河川改修のおかげで水害の心配は
なくなつたのですが、緑化が行われて
いないということを常々残念に思つて
いました。そこで、地域住民の皆さん
の協力を得て桜を植えたら、景観上も
貢献できるし、河川愛護にもなるので
はないかと、そんなことを思ひまして
計画しました。

岩根 特に、街道なんかは松並木があつ
てこそ街道の風情があるもので、でき
る限り保存や復元をしていただきたい
ですね。

市民の憩いの場、芹川けやき道



川崎 夢京橋キャッスルロードの歩道の真ん中に松の木が1本残っています。

人が歩くには松がないほうがいいかもしれませんが、松があることで風情が出てくるし、道路が広げられるまではこの松は寺の境内にあったという歴史を伝えてくれる証人でもあります。そういうふうには効用も多いため、通行の便だけ考えるよりも、市が残したことは正解ではなかったかと思います。

また、芹川の堤防は災害防止のため何回かさ上げされているのですが、このことよって木に負担がかかります。また、車を優先した道路づくりをする根元まで舗装され、やはり木が弱ってしまいます。利便性、経済性を追求するばかりでなくて、木も譲り、人も譲り、お互いが共存するような社会ができたなら、ごみ問題もある程度理解してもらえそうな気がしますね。



夢京橋キャッスルロードの歩道に残る松

岩根順子さん



かという気がします。たとえ多少不便になるかもしれないことも、一度立ち止まって考え直してみるとということが必要ではないかという気がします。

リサイクルをめぐる問題

市長 とここで、大工さんは生ごみのリサイクルについて地元の皆さんといっしょにやっていたいでいます。大変なご苦労があると思いますが、

大工 毎日出るごみのことです。あの程度皆さんに関心を持っていただかないとできませんね。ごみはカン、ビン、燃やせるごみなどに分けているのですが、さらに生ごみも別に分けるわけですから、煩雑すぎて参加してもらえないのではないかと最初は心配していました。しかし、「子どもたちの将来を考えて協力してほしい」と再三呼びかけて、昨年の4月から動き出しました。できた肥料は、家庭菜園の土に混ぜたり、公園の樹木にまいて利用し

ていただいています。

西尾 まず、できる人から始めることが大切だと思います。コスト面や運営面で一部の人に負担がかかるとは思いますが、全員でやることと時期を逃すかもしれませんが、できることから始められた大工さんの活動、本当に素晴らしいと思います。これからは自治会などのグループでの活動に期待したいです。

岩根 昔は、例えば大根を料理するとき、葉っぱも皮も丸ごと利用し、物を大事にするという生き方があたりまえでした。しかし最近では、こうした生活の知恵、暮らしの知恵が世代を超えて伝わるのが少なくなりました。生活様式が変わって、洗った野菜を買ってくるだとか、冷凍食品を使うというふうになってきているので、押し付けではなかなかできないことがあるのではないかと思うのですが。



川崎昭重さん

川崎 私は家の近くに畑を借りているんですが、一角にポリの容器を置き、生ごみを入れるようにしています。捨てずに肥料にして畑に返すという自然循環の考え方で処理したら、燃やせるごみはほとんど出なくなりました。

大工 生ごみのリサイクルは、何もかもいっしょに出されたのでは機械も困るし、管理している者も困ります。しっかりと説明して、みんなに理解していただくことが必要です。これから活動を広げていきたいと考えています。

西尾 県内でも家庭単位で、あるいは主婦グループで生ごみのリサイクル活動に取り組んでいる例はたくさんあります。そういう皆さんとの情報交換、ネットワークづくりも有効だと思います。

市長 リサイクルが環境面からみていいことは言うまでもありません。しかし、経済的にはプラスでない場合もあります。例えば、リサイクル紙はそうでない製品よりも一般的に価格が高くなっています。安いほうが消費者に幸せをもたらすのだから、コストのかさむリサイクル紙づくりは消費者のためにならない、と考えるメーカーがあっても不思議ではありません。こうした考え方にどう対処すべきでしょうか。

岩根 私たち消費者の意識改革も必要です。消費が増えれば価格も低下するはず。ただし、リサイクルが万能というわけでもありません。やはり、「物を大事に使う」「ごみを出さない」ということに尽きると思います。儉約の精神こそが、環境問題を考えるキ

大工 真理子さん



ワードではないかと思えるんですよ。地球環境に対する認識だとか、コスト意識だとかいう以前の問題ではないでしょうか。

環境施策と個人の自由

市長 彦根市には都市景観条例がありますが、どつして市は建物の色だとか形をとやかく言うのだという声があります。環境問題でもありませんからと願いますが、なかなか難しいところがありますね。

都市にはやはり秩序がないといけな
いと思います。街路樹だつてそうです。
地域によって樹種を統一したり、変え
たりするということも非常に重要だと
思います。でも、中には「そんなこと
は自由ではないか」「行政にとやかく
言われるより、各自が判断したらいい
のではないか」という声もお聞きしま
す。表現の自由は理解しなければなり
ませんが、お互いを尊重して、快適な

環境を作っていくということときにど
のあたりまで行政の裁量が許されるの
か、難しいところです。

岩根 やはり、規制緩和ということもあ
るかとは思いますが、ある程度の規制
は必要じゃないかと思えます。特に環
境問題については、個人の自由だから
といって許される状況にはないとい
う気がします。

川崎 環境問題全般について言えること
ですが、個人の自由だけでなく、環境
に配慮した市民の協力が必要ですね。

あくまで規制というようなことでは解
決できる問題ではなく、市民の意識改
革でもいうか、環境の大切さを認識
し、それに協力していただいたうえで
共存を図っていくことが重要ではない
でしょうか。

大工 ごみの分別にしても強制されてす
るものではなく、本人の意識が、どう
してこれが必要なか理解してもらつ
たうえでやらないと長続きしないので
はないかと思えます。

西尾 私は学生ですから、まず客観的に
知ることに努めたいと思えます。今
修士論文で「湖沼保全に関する環境意
識調査」を実施しています。調査結果
で社会に貢献したいと思えます。

岩根 彦根には、湖辺の生活があつたり、
山村の生活があつたり、また、都市化
した生活があつたりと多様性がありま
す。それぞれ地域ごとに人の営みが違
いますから、自然環境、文化的な環境
歴史的な環境それぞれにいろんな受け
口があると思えます。それらをひとく

くりにして考えていくことは非常に難
しいと思えます。やはり、小さなコミ
ュニティの中で、自分たちの生活に一
番かかわっている問題に、できること
から手をつけていくべきだと思えます。

市長 平成16年度中に、市のすべての施
設がISO14001の登録を受ける
ように、今一生懸命やっているところ
です。しかし、これは市役所の中だけ
の問題ではありません。そういった環
境重視の姿勢や施策が、市民の皆さん
にも自分自身の問題として理
解していただけるよう、先駆
けになればということをやっ
ております。

省エネルギーの活用も、環
境問題として忘れてはならな
いものです。北老人福祉セン
ター「ハピネスひこね」や佐
和山・河瀬の両デイサービス
センターなどの市の施設で
は、太陽光のエネルギーを利用
しています。今年の7月に
オープンする予定の新しい市
立病院では、さらに徹底して
太陽光や太陽熱、雨水をエネ
ルギーとして活用する設計に
しています。こうした建築の
インシヤル・コスト（初期費
用）は高くつくという欠点も
ありますが、長期的視野で考
えますと、ランニング・コス
ト（維持費）は安くつくとい
う試算が出ています。

地球的な規模での環境問題

について考え、行動に移していかなければならない時代です。市民と行政のパートナーシップを重視し、文化という側面も併せて考えて環境問題への対応を進めていかなければならないと考えています。市民の皆さんのご理解とご支援をお願いしたいと思つていま
す。

皆さんから貴重なご意見や経験を伺
うことができました。どうもありがと
うございました。

